

令和5年度  
地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター  
年度計画（案）（概要）

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター

## 医療・介護などを含めた高齢者を取り巻く情勢（第四期中期目標より）

- ・団塊の世代が後期高齢者となる2025年（令和7年）には高齢化率は23.0%、団塊ジュニア世代が高齢者となる2040年（令和22年）には27.8%となり、都民の約4人に1人が高齢者となると予測されるなど、高齢化が急速に進展
- ・高齢者は、複数疾患やフレイルなどの老年症候群、生活機能障害を有することが多いため、求められる高齢者医療・医学の在り方は、従来の臓器機能の維持・回復を目指した「治す医療」から、生活機能の維持・回復も目指した「治し支える医療」へと変化

### 第三期中期計画のミッション

- ・ 三つの重点医療（血管病・高齢者がん・認知症）について、高齢者の特性に配慮した低侵襲な医療の提供
- ・ 多職種が連携した生活機能の維持・向上を目指した支援を実施し、これらの取組を「高齢者医療モデル」として確立・普及
- ・ 重点医療や老年症候群に関する研究、高齢者の社会参加の促進やフレイル・認知症などを抱える高齢者の生活を支えるための研究を推進
- ・ 公的研究機関としての役割を踏まえ、研究内容及び研究成果の公表、行政施策への提言を積極的に実施
- ・ 経営状況の分析・管理に取り組むとともに、収入確保・費用削減を実施

### 第四期中期計画のミッション

- ・ 三つの重点医療に加え、高齢者糖尿病を新たに重点医療として位置付け、フレイルの視点をより一層重視した早期からの「予防し、治し支える医療」を「高齢者医療モデル」として確立・普及
- ・ 新興・再興感染症を踏まえた感染症対策や、首都直下型地震等に備え災害医療の取組を強化
- ・ 老化のメカニズムや老化制御などの自然科学的な研究並びに疫学調査や社会調査などによる社会科学的な研究を推進
- ・ 病院と研究所が一体となり、認知症未来社会創造センター、フレイル予防センター、スマートウォッチ等のデジタル機器を用いた健康づくりに関する研究プロジェクトの取組を推進
- ・ 各種取組の成果について、様々な媒体を通じたパブリシティを積極的に推進し、都民への普及・還元を実施
- ・ DXを積極的に推進するなど、一層の経営基盤強化を図り、財務内容の改善を実施

### 令和5年度計画のポイント

#### 【新型コロナの状況】

- 当センターは、東京都が設立した地方独立行政法人として、新型コロナに対し、これまで東京都や板橋区、地域医療機関とも連携しながら対応を進めてきた。
- 新型コロナへの対応を行う中で、宿泊療養施設やワクチン大規模接種会場への医師・看護師・薬剤師派遣等の影響による稼働病床数の減少に伴う通常医療の制限並びに調査研究活動の制限などがあったが、当センターの運営への影響を最小限に抑えた。
- 新型コロナの5類感染症への見直しの動向を注視しながら、院内感染対策を徹底したうえで通常医療の再開を早期に実現する必要がある

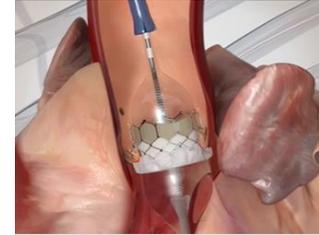
**新型コロナ収束後の医療・研究体制を早急に構築するとともに、喫緊の課題であるインフラ整備に向けた検討を加速させ、第四期中期計画を踏まえたセンターのミッションを着実に遂行する。**

【高齢者医療の健康長寿を支える医療の提供・普及】

センターがこれまで重点医療として掲げた血管病・高齢者がん・認知症に新たに高齢者糖尿病医療を加えた四大重点医療を中心として、フレイルに配慮した患者が安心できる医療提供体制を推進する。

【血管病医療】

○重症心不全患者に対する、**経カテーテル的大動脈弁治療（TAVI）**や**補助循環用ポンプカテーテル（Impella）**による高度な治療を実施



【TAVI】



【脳血管治療】

○OFDI血管内画像診断システムを使用した精度の高い治療や、難度の高いステント閉塞症例に対するエキシマレーザーを使用した治療、不整脈に対する高周波心筋焼灼術（カテーテルアブレーション）等、より低侵襲で効果の高い治療を実施

○脳血管内治療を中心として、侵襲性を考慮した医療プランを構築し、自立機能やQOLの低下を防止する医療を提供

○脳卒中患者などに対し、各診療科で連携しながら、**基礎疾患、他血管疾患の有無を考慮した医療を提供**するとともに、フレイルへの影響を考慮し、機能回復、機能温存を図る

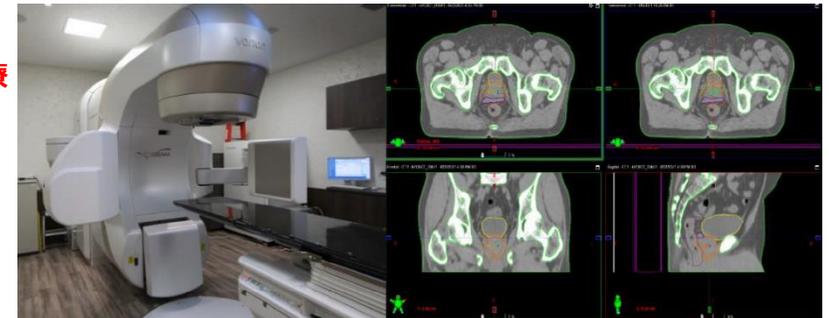
○**フレイル外来における術前のフレイル状況の評価に応じて、呼吸練習、歩行練習、栄養改善などを試み、手術当日に向けた状態及び術後の経過の改善**を図り、入院期間短縮につなげる

【高齢者がん医療】

○外科・消化器内視鏡内科で肝胆膵カンファレンスを共同開催し、**胆道がん、膵がん等各種悪性腫瘍による閉塞性黄疸や高齢者の総胆管結石などの診断と治療**を実施

○放射線治療科と各診療科が連携し、乳がん、消化器がん、泌尿器疾患などの対象疾患に対し、**治療・緩和双方からのアプローチで適切な治療を実践**

《参考：令和5年度目標値》 ・画像誘導放射線治療（IGRT）150例  
・定位放射線治療 7例



【画像誘導放射線治療（IGRT）】

○がん治療開始時にフレイル外来で高齢者機能評価を行い、多職種の協働により、**高度な有害事象を回避しうる治療方針の決定や、治療と併行した介護予防のための介入**を実施するとともに、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）を推進

○終末期ケアとは異なる早期からの緩和ケアについて、医療・介護従事者、患者及び家族に対し、研修、教育機会への参加を促進

○各診療科において、がん性疼痛看護認定看護師、がん化学療法看護認定看護師、がん薬物療法認定薬剤師、外来がん治療認定薬剤師、MSW等と連携するとともに、がん相談支援センターも活用することで、がん患者及びその家族に対し適切な医療を提供

【認知症医療】

○認知症未来社会創造センター（IRIDE）の項参照



## 【高齢者糖尿病医療】

○糖尿病看護認定看護師による**糖尿病看護外来の大幅な拡充**などにより、療養困難症例に対する治療体制を強化  
 ≪参考：令和5年度目標値≫ ・糖尿病看護外来年間延べ患者数 1,000人

○**間歇スキャン式（機械をかざして血糖値を確認）**や**リアルタイム持続血糖測定器（CGM）**の検査結果を踏まえた良質な血糖コントロールを目指すインスリン治療を行い、適応症例の受入れ増加を図る

○**高齢1型糖尿病患者に対する最新のインスリンポンプ治療（SAP、セミクローズドループシステム）**の利用拡大を図り、全自動で血糖を制御する将来のインスリンポンプ治療（人工膵臓）に備える

○「**東京都区西北部糖尿病医療連携推進検討会**」基幹病院として、行政、医師会及び歯科医師会等と連携し、地域における糖尿病の重症化予防やフレイル予防の活動を推進

○「**いたばし糖尿病多職種ネットワークの会**」を開催し、地域の多職種に対してセンターの高齢者糖尿病に関する知見等を提供することで、地域での糖尿病診療のレベル向上を図る

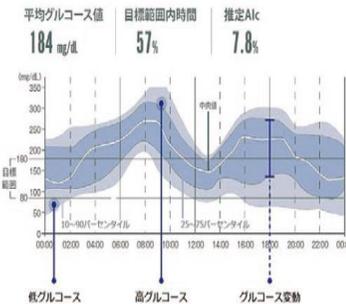
○**地域のフレイルサポート医の育成や上記の会議の場の活用による連携強化により、糖尿病緊急症患者のスムーズな受入れを行う**とともに、MSWを通じて、**他院からの転院相談及び回復後の患者の逆紹介ができる仕組みづくり**を行う



【糖尿病フットケア】



【インスリンポンプ（SAP）】  
リアルタイムCGMを併用したインスリンポンプ療法。低血糖傾向を感知して注入を一時停止する機能あり



解析された2週間の血糖プロファイル（例）  
【持続血糖測定（CGM）】

## 【高齢者の特性に配慮した医療】

○大腿骨近位部骨折に対する骨接合術・人工骨頭置換術、脊椎圧迫骨折に対する経皮的椎体形成術を積極的に行うとともに、**骨粗鬆症治療を適切に行うことにより二次骨折を予防**

○加齢に伴う関節疾患・脊椎疾患に対して人工膝関節置換術、人工股関節置換術、腰椎椎弓切除術、頸椎椎弓形成術等を積極的に実施

○急性腎臓病(AKI)患者の積極的な受入れや持続緩徐式血液濾過透析（CHDF）治療などの集学的治療を効率的かつ効果的に実施

○慢性腎臓病(CKD)の進行がフレイルを加速させるため、CKD危険因子となる疾患の予防に努めるとともに、サルコペニアの症状を伴うCKD患者に対し、タンパク制限緩和を実施

○手術後の栄養障害・嚥下障害には積極的にNSTやリハビリ介入を実施するとともに、手術症例については、高リスク群の抽出のため、NST委員会・術前検査センターなどの連携について検討

○入退院支援におけるチーム医療に着実に取り組むとともに、**高齢者のフレイル・認知機能低下にかかる健診を試行的に実施**するなど、**フレイルの視点をより一層重視した「予防し、治し支える医療」**を新たな「**高齢者医療モデル**」として確立・普及還元を図る



【整形・脊椎外科手術】



【透析治療】



## 【地域における公的医療機関としての取組】

区西北部二次医療圏内の病院、診療所の後方支援体制の強化に向け、地域医療支援病院の指定を目指し、紹介患者に対する医療提供、救急医療等によるかかりつけ医等の支援を通じて、効率的な医療提供体制の構築を図る。

### 【救急医療】

- 急性大動脈スーパーネットワーク、CCUネットワーク、東京都脳卒中救急搬送体制を中心として、ICU/CCU及びSCUを活用しながら、積極的に脳・心血管疾患患者を受入れ
- 救急隊との連携を密にし、急性消化器疾患、腎疾患、糖尿病緊急症、初発白血病などの救急患者について、積極的に患者受入れ
- 24時間365日、手術にも対応可能なオンコール外科医師2名体制を堅持
- 令和5年1月に認定を受けた**集中治療専門医研修施設として、若手医師の育成を推進**

### 【地域連携の推進】

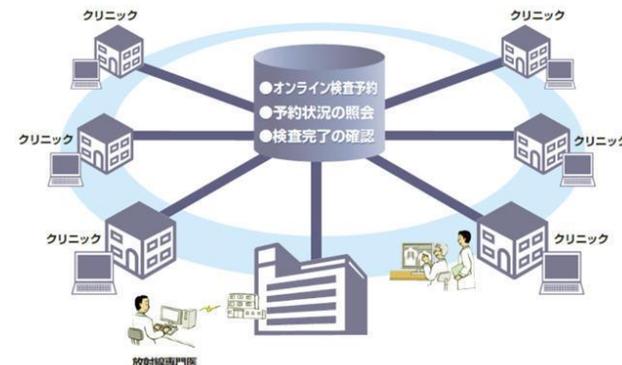
- 地域医療連携システム（C@RNA）の受診予約可能診療科や大型医療機器の検査予約枠拡大に努めるとともに、連携医療機関に対し、**オンライン検査・初診予約の利用促進にむけた訪問活動を強化**することにより、各種検査・各診療科初診予約患者のスムーズな受入を目指す
- 救急救命士を新たに採用し、令和4年度に引き渡しを受けた病院救急車を積極的に活用**して更なる地域連携強化を図るなど、令和6年度の**地域医療支援病院への指定**に向けた準備を実施
- 医療機関・介護施設等からの紹介患者受入の強化、治療後の紹介元医療機関等への返送、地域の医療機関等への逆紹介を推進  
 ≪参考：令和5年度目標値≫
  - ・紹介率 75%
  - ・逆紹介率 85%
- 高齢者に特化した低侵襲な治療や偶発症予防のシステムなどを対外的に発信し、地域医療との連携を強化すると共に、包括的なケアができる地域医療体制の構築に寄与

### 【災害・感染症等の緊急事態への対応】

- 首都直下型地震や新興・再興感染症に備え、区や地域の関係機関等と連携し、役割分担を明確にした上で、有事の際の対応を定めた**BCP（事業継続計画）の見直しを進め、実効性について具体的に検討**
- 災害発生時・感染症拡大時の対応力を強化するため、**平時から区や地域の医療機関との情報共有**を図るとともに、必要な知識や技術等に関する研修や防火・防災訓練等を実施
- 安全を担保する体制の構築に向けて、インフラ整備の検討の中で、**新興・再興感染症や災害時に一時的に患者を受け入れるスペースの確保**について併せて検討



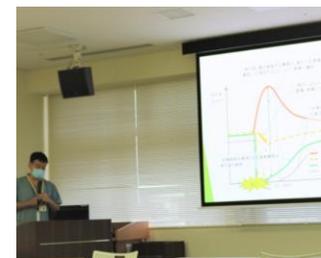
【令和4年11月に引き渡しを受けた救急車(ロゴはイメージ)】



【WEB予約システム C@RNA】



【災害時応急救護所用テント設営訓練】



【看護部BCP研修の様子】



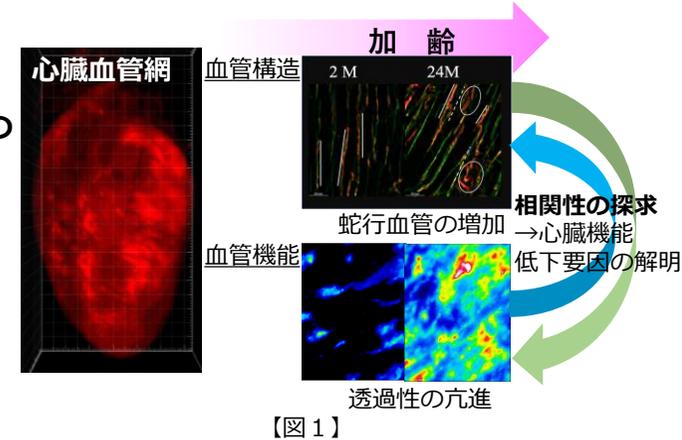
【高齢者の健康長寿と生活の質の向上を目指す研究】

高齢者の健康維持・増進と自立した生活の継続のため、老化のメカニズムや老化制御などの自然科学的研究及び疫学調査や社会調査などによる社会科学的研究を推進する。

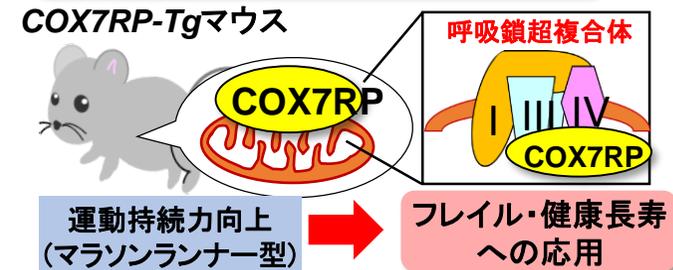
また、引き続き、トランスレーショナルリサーチを推進するとともに、研究内容及び研究成果のパブリシティを通じて、研究成果の実装・社会還元に向けて取り組む。

【高齢者に特有な疾患と老年症候群を克服するための研究】

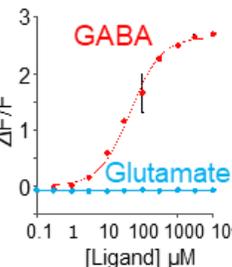
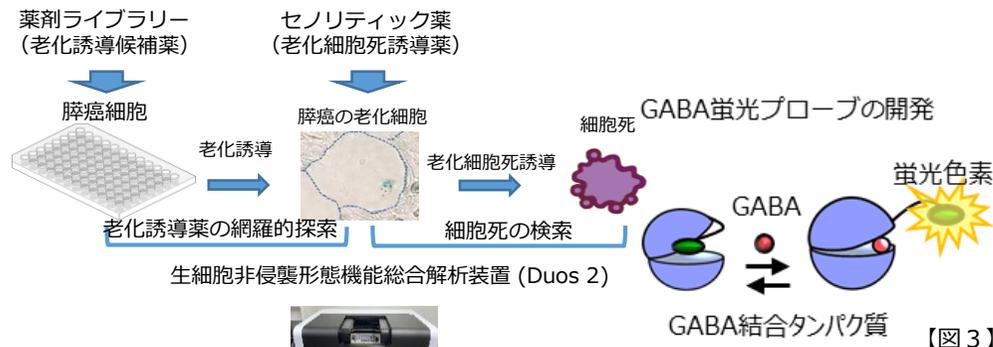
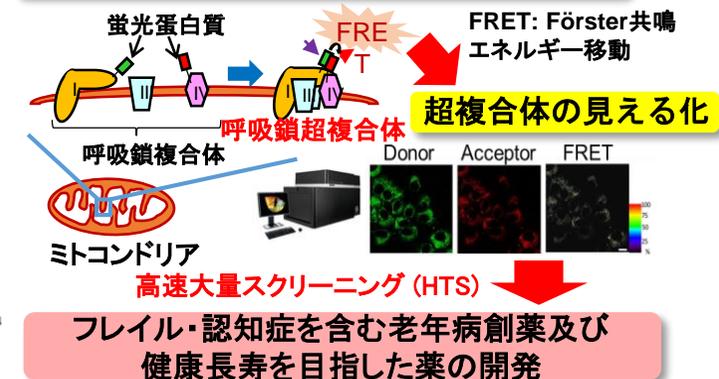
- 加齢に伴う心臓組織内血管構造変化と透過性機能変化との相関性を明らかにし、**心臓組織機能低下の機序解明を進める** (図1参照)
- 膵がんの患者ごとのがん細胞の性質の違いを明らかにすることで、**新たな早期診断マーカーと個別化治療の開発を行う** (図2参照)
- タウオリゴマー試薬を用いたIRIDEコホート試料の解析に取り組む
- アルツハイマー病の病態解明に向けて、APP (アミロイド前駆体タンパク質) 代謝に影響を及ぼす糖鎖変化とそのメカニズムを解析
- 神経伝達物質可視化プローブの新規開発による認知症や神経変性疾患の脳シナプス変性、特に**アクティブゾーン欠落の分子メカニズムと病因研究に取り組む** (図3参照)
- 神経筋シナプスの再生を指標とする早期診断のバイオマーカーを活用し、サルコペニア及び神経筋難病の予防・治療法の研究を実施
- 認知症疾患修飾薬の実用化に対応したアミロイドPET適正使用ガイドラインの改定を実施
- 健康長寿・認知症・フレイル**などにおける性ホルモン・ビタミンシグナル並びにミトコンドリア呼吸鎖超複合体の役割を解明 (超複合体形成制御因子COX7RPの解析) し、それらに対する**新規診断・治療・予防法開発への応用**を進める (図4参照)
- 歯周病と認知症、血管病及び糖尿病との因果関係の解明並びに治療法の開発を目指し、**歯周病菌の新規診断法の研究開発**を実施



超複合体形成制御因子COX7RPの解析



超複合体形成の新規制御メカニズムの解明





【高齢者の地域での生活を支える研究】

- ヘルシー・エイジングを推進する社会システムの構築に向けた研究について、フレイル・認知症の一次予防の観点から取り組む（図5参照）
- 多様な高齢者の社会参加・社会貢献を促進する手法を開発するとともに、健康増進機序効果と作用機序の解明、高齢者の社会活動の受け手・関与者への影響を多面的に検討
- 高齢期に社会的孤立に陥ることを防ぐための介入・観察研究**について、中年期から前期高齢期までを主な対象として実施
- フレイルや認知機能低下の要因の解明並びにバイオマーカーの探索**とともに、二次予防の観点からフレイルや認知機能低下の改善を目指した介入プログラムの開発研究を実施
- 日常生活歩行把握のためのウェアラブル測定装置の信頼性に関する研究を行うとともに、**IoTデバイスによるフレイルの検知方法の開発に向けた研究**を実施
- 高齢者の口腔及び栄養評価法の確立のための基盤データの収集、**小型IoTデバイス×AIを活用した高齢者の食事摂取状況把握を目指した研究**（図6参照）並びに**認知症の人への円滑な歯科治療提供体制整備を目指した研究**を実施
- 認知症とともに生きる高齢者が希望と尊厳をもって暮らすことができる認知症フレンドリー社会のモデル構築に向けた研究を実施
- 地域コホート研究等を通じ、**複雑かつ困難な状況にある高齢者が包摂される社会**の実現のために必要な高齢者地域支援体制に関する研究を実施
- 地域単位で収集された**レシピ・健診データや長期縦断研究データ**を**分析**し、高齢者の特性を踏まえた保健・医療・介護システム構築に資する研究に取り組む



- ・ 食事写真画像をAIによって診断し、食の多様性を利用者 にフィードバックする。
- ・ 日々の噛むデータをAIによって解析し、低栄養やオーラルフレイルをスクリーニングし、適宜利用者にフィードバックする。

よく噛み、多様な食品を摂ることで健康長寿を達成する

【図6】

**【老年学研究におけるリーダーシップの発揮】**

- センター内で散在して蓄積されている生体試料及び情報を集約**するとともに、急速に進んでいく国際標準の規格に対応していくため、環境条件・設備条件・情報インフラ・必要人員の洗い出しを行い、**メディカルゲノムセンター（仮称）の機能や整備の在り方について検討**
- 第12回アジア/オセアニア国際老年学会議（IAGG-AOR2023）や第11回TOBIRA研究交流フォーラムにおいて**IRIDE事業等の研究成果を広く発信**
- DX推進に向けたICTやロボット技術等の研究・医工連携等への積極的関与により、引き続き国内外における老年学研究を牽引し、リーダーシップを発揮

**【研究成果の社会への還元】**

- 臨床と研究の両分野が連携できるメリットを生かしながら、**ウェブアクセシビリティの達成基準などを参照し、インターネットにおける情報発信力を高める**とともに、**プレス発表等のパブリシティを通じて、研究成果の積極的な発信**を実施  
«参考：令和5年度目標値»
  - ・YouTubeチャンネル登録者数 4万人（年度末）
  - ・Twitterフォロワー数 2,200人（年度末）
  - ・HPアクセス件数 30万件/月
- センターが管理・保有する知的財産について、**産学公連携に係るホームページの新設等**により適切に外部へ情報発信等を行い、**産学連携での共同研究を推進**
- ワンストップ相談窓口を通じた企業等との適切な契約締結を推進していく。また更なる外部資金獲得に向け、研究成果の実用化や臨床応用の推進、知的財産の活用を図る
- 認定臨床研究審査委員会（CRB）や倫理委員会において、研究者や臨床医師が行う研究を適切に支援（**CRBにおいては、都立病院機構などの外部機関からの研究の審査・管理に対応**）  
（※参考）認定臨床研究審査委員会（CRB）の審査実績（令和4年度（2月まで））**院内9件、院外（都立病院3施設及び東北大学病院）59件**



## ① TOKYO健康長寿データベースの構築

・センターの保有する各種データを統合した**オープンに活用可能なDBを構築し、**

### 活用を開始

#### R5年度目標

・ブレインバンクを発展させたメディカルバイオバンク研究、DEMCIRC研究などの質の高い前向き研究のデータに関して、クラウド環境及びオンプレミス環境を併用して適切にデータの集積を進める

## ② メディカルゲノムセンター

・脳などの臓器や血液、髄液などの生体試料の保管及びゲノム解析、

### 体液バイオマーカーの開発及び共同研究の推進

#### R5年度目標

・統合バイオバンクへのサンプル蓄積を継続するとともに、前向きの生体試料の蓄積対象診療科を拡大  
・新規バイオマーカーの測定系を開発し、サンプルの測定を開始

## ③ AI診断

・AIを活用した**画像診断システム及び自動会話プログラムの開発**

#### R5年度目標

・微小脳出血診断実用システムを完成させ、Fazekas分類診断のアルゴリズム開発を進める  
・チャットボット開発を継続し、プロトタイプを用いて3施設にて実証研究を開始

## ④ 地域コホート

・地域コホート研究データの統合活用及び認知症リスクチャートの作成

#### R5年度目標

・認知機能の変化、要介護認知症をアウトカムとした統合データの作成・分析

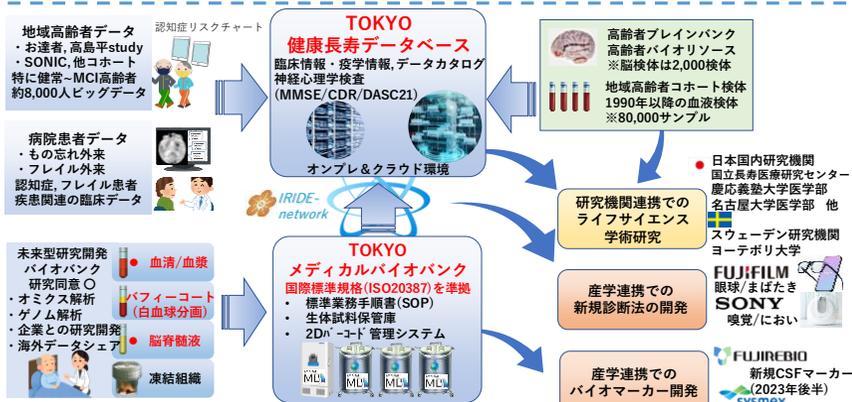
## ⑤ 認知症疾患医療センター

都受託事業

・認知症疾患に関する鑑別診断・初期対応、BPSDと身体合併症の急性期治療、専門医療相談、診断後支援、地域保健医療・介護関係者への研修等を行うことにより、地域において認知症に対して進行予防から地域生活の維持まで必要となる医療を提供できる機能・体制を構築

## ⑥ 認知症支援推進センター

・都における認知症高齢者等を地域で支える支援体制を構築するため、認知症支援に関わる医療専門職等の認知症対応力向上のための取組を推進



【IRIDEでのデータベース・バイオバンク構築、共同研究体制】

## ① フレイル診療ネットワーク構築とフレイル外来の機能強化

・フレイルをきたす全ての診療科が連携  
・フレイル外来では連携して**フレイルの評価・対策を強化**

## ② フレイルサポート医の育成

・医師会と連携し、**地域におけるフレイル対策をリードする医師を育成**

#### R5年度目標

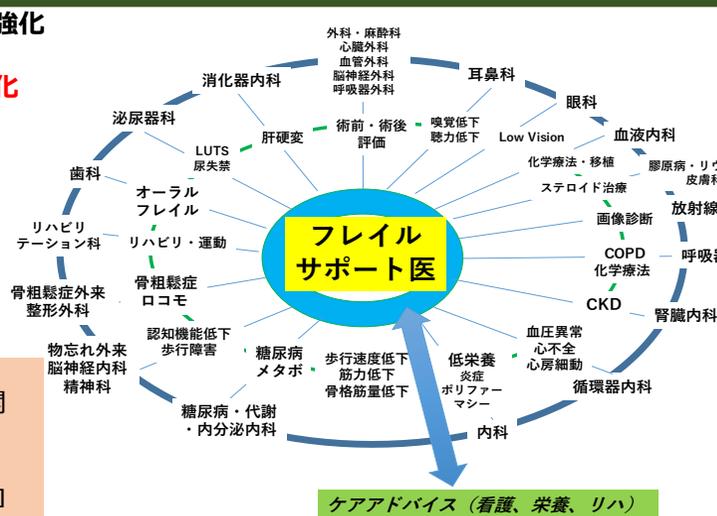
・東京都医師会を始め、他地域の医師会とも連携を取り、フレイルサポート医研修会を開催

## ③ フレイルをサポートするコメディカルの育成

・フレイルに対する**看護・栄養指導の質の向上**

#### R5年度目標

・東京都栄養士会、女子栄養大学と連携して研修会を開催し、フレイルサポート栄養士の更なる増加を目指す  
・フレイルサポートナース養成研修を実施し、フレイル・プレフレイル患者を見抜く力を養い、介護予防サロン等へつなげる



ケアアドバイス (看護、栄養、リハ)

【フレイル診療ネットワーク】

## ④ 運動の対策

・**運動指導の質の向上**

#### R5年度目標

介護予防 (主任) 運動指導員養成事業を通じて、介護予防・フレイル予防の人材を育成

## ⑤ 地域との連携

・自治体や医師会と連携し、**介護予防・フレイル予防の取組を支援**

#### R5年度目標

・板橋区・医師会と連携し、フレイル予防のための保健事業と介護予防事業を一体的に実施できるようにサポートを実施  
・東京都介護予防・フレイル予防推進支援センターとして、区市町村・地域包括支援センター職員等に対する研修、通いの場の職員等に対する相談支援等を実施

《概要》 ○スマートウォッチ等のデジタル機器を用いた健康づくりに関する研究プロジェクトを立ち上げ、自治体との連携体制構築とともに研究基盤を整備し、地域在住高齢者及びフレイル外来受診者を対象に各種デジタル機器の実用性を検証

《事業内容》

① スマートウォッチに連携したアプリ開発

- ・ウェアラブルデバイスのアプリへの接続
- ・分散型ビッグデータデータベースを構築
- ・身体的・認知的・社会的フレイルの機械学習モデルを作成
- ・ゲーミフィケーションなど、高齢者の行動変容が期待できるアプリを探索

② スマートウォッチの網羅的検証とデバイス選定

- ・スマートウォッチにより計測する活動関連データを研究用活動量計による各種データと比較
- ・スマートウォッチにより計測する睡眠関連データを脳波計や睡眠マットによるデータと比較

③ ICTに関する調査

- ・高齢者のウェアラブル端末を含むデジタルデバイス保有率・ICTリテラシーの程度を把握するとともに、デジタルデバイスに関連する要因・問題を明らかにする

④ 介護者の睡眠測定・抑うつ予防

- ・活動量計を用いて測定する活動量・睡眠指標と日常の介護実態、負担感、抑うつとの関連を検討し、主観的健康感を予測する測度を検証

⑤ スマートウォッチ情報と健康の関連

- ・地域高齢者を対象に住民健診を実施し、運動機能、認知機能、医学的検査等を測定
- ・スマートウォッチで計測された活動、睡眠、脈拍等の指標と健診で得られた健康指標の関連を検証

⑥ 歩行異常の早期発見

- ・アンクルバンド型加速度計とスマートフォン内蔵GPSで測定した日常生活歩行速度の一致度を検討
- ・日常生活歩行速度とフレイル等健康アウトカムとの関係を分析

⑦ 低栄養・オーラルフレイル早期発見

- ・咀嚼力評価機器を用いて、日常的な咀嚼のモニタリングを行い、栄養状態等の関連を検討
- ・食事画像による食品摂取多様性スコア評価をアプリに反映させるための検証を実施

⑧ 病院における取組

- ・フレイル外来の患者にスマートウォッチやアンクルバンド型加速度計を装着し、疾患（糖尿病、心房細動、心不全など）を考慮したウェアラブル指標を開発することで、アプリ開発につなげる
- ・侵襲的手術における合併症を検出し、フレイルの進行を予測するウェアラブル指標を開発

【事業イメージ】



【スマートウォッチ】



1. 消費カロリー（活動量、歩数）
2. 睡眠時間・状態
3. 脈拍数（PPI:脈波間隔）
4. 会話時間
5. 皮膚温度
6. 紫外線量

【アンクルバンド型歩行速度計測】



スマートウォッチ等デジタル機器活用事業



## 【高齢者の医療と介護を支える専門人材の育成】

健康長寿医療研修センターが中心となり、医療・介護人材の育成に向け組織的かつ効率的に対応を支援

○学生見学や学生講義等を行い、**研修医の受入れを積極的に進める**とともに、他の医療機関や研修関連施設と連携し、**高齢者医療や老年医学の研修教育を行う**ことにより、人材を確保・育成

○骨粗鬆症リエゾンサービスの役割を担う**骨粗鬆症に関する知識を有するメディカルスタッフを育成**し、骨粗鬆症の予防、診断と治療の充実を図る

○特別研究員、連携大学院生、研究生を積極的に受け入れ、老年学・老年医学を担う研究者を育成

○医師の負担軽減を図るため、**医師の採用を積極的に進める**とともに、タスクシフト/シェアに向け、**医師事務作業補助者の計画的な採用・育成**を実施

※認知症未来社会創造センター（IRIDE）及びフレイル予防センターの人材育成については別項参照



【フレイルサポート医研修の様子】

## 【地方独立行政法人の特性を生かした業務の改善・効率化】

○**働き方改革に向けて、RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）を導入して業務の一部を自動化**するなど、業務軽減並びに超過勤務削減につなげる

○受診勧奨として開始した「オンライン相談」について、ホームページやSNSなどの活用により認知度向上を図り、新規患者獲得につなげる

## 【適切な法人運営を行うための体制の強化】

○全職員を対象とした悉皆研修の実施やコンプライアンス推進月間を活用して、センター職員のコンプライアンス（法令遵守）を徹底

○研究不正防止研修会や研究倫理教育（e-ラーニング）を実施し、不正防止に対する意識の浸透とルールの習熟を図る

## 【財務内容の改善】

○初診患者・紹介患者の更なる獲得に向けて、**C@RNAシステムを利用した初診web予約の積極的な活用**に向けた周知を図るなど、地域の医療機関との連携を強化

○引き続き、競争的資金への応募や共同研究・受託研究を推進し、外部研究資金を積極的に獲得

○新型コロナへの対応として、研究所と連携したPCR検査、全自動遺伝子解析装置などにより、迅速なスクリーニング（1時間以内に結果が出る）を行い、救急等の入院患者を積極的に受け入れ、収入を確保

○医療機器の購入について、**センター内の保有状況、稼働目標やランニングコストなどの費用対効果を明確にした上で購入を決定**することに加え、目標達成状況のフォローアップも行い、一層の効果的な運用とコスト削減を実施

○紙媒体で実施している業務について、**ペーパーレス化を検討**するなど一層の効率化を図り、生産性を向上

○マイナンバーカードの健康保険証としての利用等（オンライン資格確認）について、国の方針に基づき適切な実施体制を継続し、利用者に対するサービス向上を図る



【今年度増設したPCR機器（GENE CUBE）】

## 【法人運営におけるリスク管理の強化】

○センターで稼働している**システムの評価・分析を行い、ネットワークセキュリティなどの情報基盤を強化**することで、システムによる情報漏えいを防止するとともに、サイバーセキュリティの動向を注視し、必要な対応を実施

○全職員を対象としたe-ラーニングによる情報セキュリティ及び個人情報保護研修を実施するとともに、情報セキュリティにかかわる注意喚起を定期的に実施